

8 南部地域活性化プログラムの取組状況について

1 現状と課題

県南部地域では、豊かな自然やその恵み、自然と共生してきた地域の文化など、多くの資源や魅力が存在する一方で、基幹産業である第一次産業の衰退や若者世代の人口流出により、高齢化、過疎化が進行しています。また、東紀州地域では、紀伊半島大水害からの復興を確実なものにしていくことが求められています。

このため、「南部地域活性化プログラム（以下「プログラム」という。）」では、若者の雇用の場の確保と定住促進に向けた取組や東紀州地域の観光・産業振興などの取組を進めるとともに、総合的・横断的な事業推進を図ることとしています。

プログラムの取組を推進するため、13市町・有識者・県で構成する「南部地域活性化推進協議会（以下「協議会」という。）」において、各種取組の進捗状況の共有や事業化の検討・協議を行うとともに、市町等と連携した課題の解決や活性化に向けた取組を進めています。

さらに、東紀州地域においては、世界遺産熊野古道を核とした自然・歴史・文化、地域資源などを生かした観光・産業振興の取組を、地域のコーディネータである東紀州地域振興公社や、集客交流拠点である熊野古道センターおよび紀南中核的交流施設を活用しながら進めています。

加えて、南部地域の活性化に向けた課題は多岐の分野にわたることから、知事を本部長とする部局横断組織である「南部地域活性化推進本部」本部員会議を開催するなど、各部局との連携を図っています。

2 取組状況について

(1) 若者の雇用の場の確保と定住促進について

① 三重県南部地域活性化基金の活用

複数市町の取組等を支援する「三重県南部地域活性化基金（以下「基金」という。）」を活用した事業の主な取組状況は、次のとおりです。

- ア 第一次産業の担い手確保対策事業：柑橘関連の長期就農研修に希望者を受け入れるとともに（1名）、就業フェアや移住相談会に出展してPR。
- イ 移住交流推進事業：3市町（熊野市、大紀町、紀北町）共同で田舎暮らし体験ツアーのPRチラシを作成するとともに、7月に大紀町で同ツアーを実施（16名参加）。
- ウ 幹線道路を活用した誘客促進事業：サニーロードに係る取組（玉城町、度会町、南伊勢町）では情報発信拠点を整備するとともに3町合同沿線マップを作成。R42号に係る取組（大台町、大紀町、紀北町）では3町合同情報誌を作成。いずれも高速道路のサービスエリアや道の駅で配布する等、PRを実施。

- エ 子どもの地域学習推進事業：宮川小学校（大台町）、七保小学校（大紀町）の総合学習で、地域の魅力を発見し、地域への愛着を育む授業を実施。
- オ 企業立地セミナー開催事業：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町が連携して8月に大阪で企業立地セミナーを開催。150名を越える参加者に対して地域をPRするとともに、企業とのネットワークを構築。
- カ 婚活支援事業：婚活イベントを紀宝町（7月、40名参加）と大台町（8月、27名参加）で実施。鳥羽市（11月）、南伊勢町（10月）、玉城町（11月）では参加者を募集中。
- キ 地域資源を活用した雇用創出事業：新規雇用を伴う事業拡大を行う3事業者を採択し、3名の雇用を創出。
なお、基金を活用した事業の詳細については、別紙のとおりです。

② 移住交流の取組

市町と連携し、移住者の受入体制の充実を図るとともに、平成24年度に引き続き、三大都市圏において、岐阜県など他県とも連携して移住に向けた情報発信等を行っています。

ア 名古屋：岐阜と三重の合同移住相談会

8月4日に、名古屋において岐阜県と共催で合同移住相談会を開催したところ48組の参加がありました。

イ 大阪：ふるさと回帰フェア

9月21日に、大阪において認定NPO法人ふるさと回帰支援センター主催の「ふるさと回帰フェア」に出展したところ52組の参加がありました。

ウ 東京：首都圏営業拠点「三重テラス」における移住相談会

11月以降に、移住相談会を首都圏営業拠点「三重テラス」において3回開催することとし、その内2回は、長野県・岐阜県と共催でそれぞれ合同相談会を開催します。

③ 集落支援のモデル的な取組

南部地域では、集落機能が弱くなっている地域が増えていることから、モデル地域を選定し、市町・大学と連携して集落機能を維持するための取組を進めています。

平成24年度から、慶應義塾大学と連携して尾鷲市早田および近隣集落において、四日市大学と連携して志摩市渡鹿野島において取組を進めており、学生との協議を通じて、尾鷲市では「食」という地域資源を生かして地域コミュニティを再生する取組が、志摩市ではSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した地域の魅力を発信する取組が動き始めています。

平成 25 年度は、尾鷲市・志摩市のモデル地域での取組に加え、新たに三重大学と連携して、南伊勢町礪浦（さざらうら）地域、紀北町島勝浦地域、御浜町神木（こうのぎ）地域、紀宝町浅里地域をモデル地域として取組を進めています。

④ 活性化に向けた「仕組み」の構築

プログラムでは、「南部地域のあらゆる世代の人びとが生まれ育った地域に住み続けたいという思いがかなうような地域社会の形成」をめざしています。これを実現するためには、各市町を中心とする「地域」が主体的に考え、取組を進めていくことが重要であり、協議会や基金を軸として、そのための「仕組み」を構築しているところです。

現在、基金を活用した様々な市町の枠組みによる主体的な取組が動き出しています。この流れを止めることなく、成功事例を生み出し、協議会等において共有し、常に到達目標を関係者が意識しながら、具体の取組を重ねることで、南部地域の活性化を推進する「仕組み」を構築していきます。

(2) 東紀州地域の観光・産業振興の取組について

① 東紀州地域振興公社、熊野古道センターおよび紀南中核的交流施設を活用した取組

ア 東紀州地域振興公社

5月より、大阪市西九条商店街の空き店舗を活用した物産販売の支援を行うとともに、5月、8月の「三重フェア」など県外での観光展や物産展等への出展により熊野古道伊勢路の情報発信等を行っています。

今後、熊野古道伊勢路を核とした旅行商品の企画やエージェントセールスを行うとともに、東紀州地域特産品の販路拡大を図るため、商品の高付加価値化に向けた取組の支援、商談会等への出展支援、大都市圏でのアンテナショップや物産展等への出展支援を行っています。

イ 熊野古道センター

地域の隠れた魅力を紹介した「須賀利大池展」などの企画展や地域と連携した交流イベントの開催等により、4月から8月までの来館者は対前年同期比 22.7%増となっています。

引き続き「熊野を訪ねた文学者たち」や祭りシリーズ第3弾企画尾鷲市「ヤーヤ祭り」等の企画展、地域と連携した交流イベント、ひのきアート等の体験教室を実施します。

ウ 紀南中核的交流施設

伊勢志摩の宿泊施設と連携したプランや「丸山千枚田田植えの集い」などを含めた魅力的な宿泊プランを設定することなどにより、4月から8月までの宿泊者数は、対前年同期比 22.7%増となっています。

また、地域と連携したイベントとして、4月に熊野の物産を出展する「いろは展」を開催（来場者約1,000人）したほか、月1回、小物や木工などの地域の手づくり作品を出展する「熊野里人市」（5月から8月までの来場者約350人）を開催しました。

引き続き、「花の窟お綱かけイベント」などを含めた魅力的な宿泊・日帰りプランを設定するとともに、熊野古道体験ツアーなど地域資源を活用した体験プログラムや地域と連携した集客交流の取組を進めていきます。

今後も、地域のコーディネーターである東紀州地域振興公社、集客交流拠点である熊野古道センターや紀南中核的交流施設をはじめとする関係者と連携しながら、地域資源や魅力を生かした観光振興、産業振興の取組を進めることにより、紀伊半島大水害からの復興を確実なものとしていきます。

② 熊野古道世界遺産登録10周年に向けた取組

平成25年度は、神宮式年遷宮や高速道路の概成に加え、世界遺産登録10周年の前年にあたることから、首都圏等での熊野古道セミナーの開催や神宮来訪者等への情報発信、熊野古道伊勢路でのモデルウォーク開催など、誘客促進に向けた取組や10周年に向け機運を高めるための取組を進めています。

ア 首都圏での「熊野古道セミナー」の開催

熊野古道への関心を高めるため、東京の三重テラスを活用し、10月から2月までの毎月、「熊野古道セミナー」を開催（計5回）します。

イ 地域での「熊野古道セミナー」の開催

7月に熊野市において「熊野古道セミナー」を開催し、96名の参加がありました。今後、熊野市以外の東紀州地域4市町でも順次セミナーを開催し、地域の機運の醸成を図ります。

ウ 「熊野古道伊勢路霊場めぐりモデルウォーク」の開催

新たな古道ファン層の拡大を目指すとともに、10周年に向けて機運を高めるため、熊野古道の峠と周辺の寺社仏閣をあわせて巡るモデルウォークを10月12日開催のツヅラト峠コースから始め、11月にかけて5回開催します。

エ まちなかへの誘導促進

来訪者のまちなかへの誘導、周遊を促進させるため、まちなかの魅力あるスポットの紹介や魅力ある仕掛けを構築します。

具体的には、11月に熊野市、3月に紀北町において「東紀州の魅力発見宝探しイベント」を開催します。

オ 伊勢での情報発信

7月から、伊勢神宮周辺の観光案内所に新たに人員を配置し、熊野古道をはじめとする観光情報の提供を行っています。

平成 26 年度に実施を予定している 10 周年事業については、県・市町・事業者等で構成する「熊野古道世界遺産登録 10 周年事業三重県実行委員会」において、事業内容の検討を進めているところです。その内容については、「価値に気づく、守り伝える、伊勢路を結ぶ」という熊野古道の保全と活用を主目的としつつ、集客交流を拡大し、地域経済への波及効果を高めるものとし、10 周年を契機として、地域の人々が地域に愛着を持ち、主体的に活性化に取り組むことにつなげていきたいと考えています。

なお、10 周年事業の取組方向等については、別紙のとおりです。

(3) 総合的・横断的な事業推進について

8 月に「南部地域活性化推進本部」本部員会議を開催し、プログラムの数値目標と現状、関係部局との連携状況等について情報共有を図るとともに、平成 26 年度当初予算編成において、南部地域の活性化に寄与する事業の積極的な検討を依頼しました。

今後も、同本部での協議等を通じて、市町の課題に対応する県関係部局の事業や南部地域活性化基金を有効に活用できるよう、調整を図っていきます。

また、平成 25 年度に新たに設置した地域活性化局と一体となって、基金活用事業をはじめとする各種取組の着実な進捗を図るとともに、引き続き、南部地域活性化局職員及び地域活性化局職員は、積極的に市町や集落に出向き、課題を関係部局と共有し、その解決に努めることで、総合調整機能を果たしていきます。

平成25年度 南部地域活性化基金の活用状況について

単位:千円

事業名	関係市町等	取組概要	予算額
第一次産業の担い手確保対策事業 紀南農業・農村担い手対策事業 (平成24年度～)	熊野市 御浜町 紀宝町 JA三重南紀	<p>柑橘農家の担い手を確保するため、「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会」が実施する就業希望者向けの基盤整備や情報発信等に対し支援を行う。</p> <p>①定住促進に向けた基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居の整備(研修用の住居の整備) ・遊休農地等を活用した研修ほ場の整備(優良品種園の確保)、収益向上対策として、マルドリ栽培への取組を支援。 <p>②就業希望者に向けた就業フェア等での情報発信。</p> <p>③就業希望者と研修受入農家および産地とのマッチングを図るための農業体験や先に就業した方との懇談、相談会の実施。</p> <p>⇒ 6/3～7 短期研修1名受入。6/28 長期研修に移行(平成26年4月25日までの予定)</p> <p>7/20 「三重県農林漁業就業・就職フェア」出展</p> <p>8/4 「岐阜と三重の合同移住相談会」開催</p> <p>【平成24年度実績】</p> <p>①定住促進に向けた基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居の確保(就業を目指す研修生用の住居の確保・整備) 住居の確保(所有者との賃借合意) 御浜町2戸、紀宝町2戸 住居の整備(既存住居の改修) 熊野市5戸 ・優良品種園地整備:御浜町下市木10a みえの一番星(みえ紀南1号) ・マルドリ栽培支援:御浜町志原8a <p>②就業フェア等への参加:11/24東京、2/16大阪、2/16津市。平成24年度就業相談実績:19件</p> <p>③地域訪問・相談会の実施:11/26～30(5日間。1名)</p>	1,500
漁業の担い手育成事業 (平成24年度～)	尾鷲市 志摩市	<p>漁業の担い手を育成するため、尾鷲市・志摩市における就業希望者向けの住居確保や副収入対策に対し支援を行う。</p> <p>○住居の確保策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾鷲市における漁業担い手確保と連携した空き家活用の取組に支援を行う。 <p>⇒ 尾鷲市水産担当課と協議中</p> <p>○副収入対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志摩市の漁業形態では、一定の収入が得られるまでに、複数年の経験が必要なことから、副収入を得るための取組として、新たな漁業形態への展開、鮮魚等を干物に加工して販売するための冷凍設備の整備に支援を行う。 <p>⇒ 7/29 冷凍設備を整備</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾鷲市では、10月下旬から農林水産部の担い手育成事業「漁師塾」の取組を進め、地域外から2名が1ヶ月の長期研修に参加した。研修期間中の合宿所として空き家を活用することとし、生活に必要な備品や消耗品の整備を基金を活用して行った。以降、漁師塾に参加した1名が長期研修に移行した。 ・志摩市では、副収入対策としてさつまいもの栽培を行うこととし、耕作放棄地との賃貸借契約や農地法に関わる手続きを進めるとともに、基金を活用して農機具の整備や獣害対策の電気柵の設置工事を実施した。 	450

事業名		関係市町等	取組概要	予算額
移住交流推進事業	空き家調査事業	尾鷲市 志摩市 大紀町	移住者の受入体制の充実を図るため、尾鷲市・志摩市・大紀町が実施する空き家の実態調査、所有者および活用意向調査に対し支援を行う。 ⇒ <<尾鷲市>>空き家実態調査等実施予定(10月～) <<志摩市>>空き家実態調査の実施方法検討中 <<大紀町>>町内の空き家データ等の整理中	1,145
	田舎暮らし体験事業	熊野市 大紀町 紀北町	地域への移住を促進するため、熊野市・大紀町・紀北町が実施する田舎暮らし体験ツアーに対し支援を行う。 ①共通取組 ・南部地域田舎暮らし体験ツアーチラシ作成 ⇒8/3完成 2,000部 ②個別取組 ・田舎暮らし体験ツアー(熊野市・大紀町・紀北町) ⇒<<大紀町>> 7/27~28 大紀町田舎暮らし体験ツアーまるごと錦(16名参加) 12/14~15 田舎暮らし体験ツアー ~田舎を満喫~ <<紀北町>> 10/5~6 のんびりおいしい田舎体験 11/16~17 心とカラダが癒される食からハジメル紀北町 <<熊野市>> 11/16~17 熊野の山・林業体験 1/12~13 熊野の里・農業体験	855
幹線道路を活用した誘客促進事業	サニーロードを活用した誘客促進事業	玉城町 度会町 南伊勢町	平成25年の式年遷宮、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を観光面の絶好の機会と捉え、サニーロードを活用した誘客促進を図るため、玉城町・度会町・南伊勢町が連携して行うサニーロード周辺魅力の発信や広域的な周遊を提案する取組に対し支援を行う。 ①共通取組 ・「サニーロード沿線マップ」や「サニーロード界限“産直市”案内チラシ」等の作成 ⇒ 7/1 サニーロード沿線マップ「快適*伊勢志摩めぐり『サニーロードの旅』」、ノベルティ(3町ゆるきゃら ミニうちわ)を作成 ・これら情報紙の高速SA(土山、御在所、安濃)での配布及び各町の広報紙への折込み ⇒ 7/1~ サニーロード沿線マップを高速SAや「城(ぐすく)」等で配布 ・サニーロード周知のための案内看板設置 ⇒ 9/10設置(7箇所) ②個別取組 ・サニーロードの情報発信拠点として「城(ぐすく)」(玉城町)の整備 ⇒ 4月 観光案内コーナー等を整備し、リニューアルオープン ・サニーロード合同産直市の開催(各町で開催) ・度会町道の駅(仮称)基本構想策定 ⇒ 12月下旬、報告書完成予定	7,323
	R42号沿道の誘客促進事業	大台町 大紀町 紀北町	高速道路の整備が進む中、平成25年の式年遷宮、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を観光面の絶好の機会と捉え、多くの観光客に高速道路を降りてR42号周辺の観光地を周遊していただけるよう、大台町・大紀町・紀北町が連携してR42号沿道の魅力を広く発信する取組に対し支援を行う。 ①共通取組 ・各町の四季折々のイベント情報等を盛り込んだ総合案内チラシ「大台・大紀・紀北 旬感(しゅんかん)通信」の作成 ⇒ 6/28 「旬感通信(創刊号)」を作成 ⇒ 8/30 「旬感通信(第2号)」を作成 ・総合案内チラシの高速SA(土山、御在所、安濃)や道の駅での配布及び各町の広報誌への折込み ⇒ 7/1~ 「旬感通信(創刊号)」を高速SAや「道の駅」等で配布 ⇒ 7月 「旬感通信(創刊号)」を各町の広報誌に折り込み ⇒ 9/1~ 「旬感通信(第2号)」を高速SAや「道の駅」等で配布 ⇒ 9月~ 「旬感通信(第2号)」を各町の広報誌に折り込み ②個別取組 ・R42号の情報発信拠点である道の駅「奥伊勢おおだい」「ふるさとプラザもみじ館」「紀伊長島マンボウ」「道の駅海山」の整備 ・各町別R42号沿線魅力発信マップ等の作成	7,332

事業名	関係市町等	取組概要	予算額	
子どもの地域学習推進事業	高校生地域人材育成事業	大台町 南伊勢町	次代の地域を担う人材を育成するため、昴学園高等学校(大台町)・南伊勢高等学校(南伊勢町)において、慶應義塾大学の高校生地域人材育成の取組を取り入れ、高校生を対象に、地域との関わり方などについて自ら考え行動する力を育む教育の取組に対し支援を行う。 ⇒ <u>両校での実施に向けた協議が整い、昴学園高等学校は11/6から、南伊勢高等学校は12/10から授業開始予定</u>	1,251
	小学生地域魅力発見事業	大台町 大紀町	次代の地域を担う人材を育成するため、七保小学校(大紀町)・宮川小学校(大台町)の総合学習において、地域の魅力を伝え(地域の自然などの宝物さがし等)、地域への愛着心を育む教育の取組に対し支援を行う。 ⇒ <u>七保小学校は5/10から、宮川小学校は6/18から授業開始</u>	933
企業立地セミナー開催事業	伊勢市 鳥羽市 志摩市 玉城町 度会町 南伊勢町	伊勢志摩地域への企業誘致を促進するため、企業立地促進法に基づく伊勢志摩地域産業活性化協議会が実施する大阪での企業立地セミナーの開催に対し支援を行う。 (企業立地セミナー概要) ・開催日：平成25年8月21日(水) ・場 所：帝国ホテル大阪 ・内 容：第1部：セミナー(地域の紹介、記念講演) 第2部：産業人交流会(立食形式、地域の食材提供) ⇒ <u>8/21開催：出席者163名 ※関係市町の首長も全員出席</u>	2,275	
婚活支援事業	鳥羽市 熊野市 大台町 玉城町 南伊勢町 紀宝町	県民の幸福実感の向上や定住促進をめざし、市町等が実施する婚活支援事業に対し支援等を行う。 ①県事業 ・婚活ポータルサイトの充実、アドバイザー派遣・婚活講座開催 ⇒ <u>平成25年4月から婚活イベント等の情報提供開始</u> ②市町の取組 ・伊勢志摩出逢い旅事業(鳥羽市・南伊勢町)、南部地域出逢いの架け橋事業(玉城町・大台町)、南熊トキメキ創出請負事業(熊野市・紀宝町) ⇒ <u>紀宝町：7/28開催 参加者40名 カップリング9組</u> <u>大台町：8/15開催 参加者27名 カップリング7組</u> <u>南伊勢町：10/26～27開催予定</u> <u>玉城町：11/9開催予定</u> <u>鳥羽市：11/9～10開催予定</u> <u>熊野市：日程未定</u>	2,856	
東紀州地域資源魅力発信事業	尾鷲市 熊野市 紀北町 御浜町 紀宝町	高速道路の延伸や平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を観光面の絶好の機会と捉え、地域への誘客を図るため、東紀州地域の5市町が連携して実施する地域資源を生かした情報発信に対し支援を行う。 〔事業内容〕 ・ガイドブック作成、ホームページ製作、ポスター作成、ダイジェストチラシ作成、マスコミキャラバン実施、PRグッズ作成(のぼり他) ⇒ <u>5/31 5市町の観光担当課長で構成する「熊野古道世界遺産登録10周年事業市町実行委員会」を立ち上げ</u> ⇒ <u>キャンペーンのロゴマーク、キャッチコピーを検討中</u>	8,000	

事業名	関係市町等	取組概要	予算額
人材育成推進事業	13市町の職員等	<p>集落を維持・再生していく取組など、地域住民の主体的な取組をサポートする人材を育成するため、市町職員や地域おこし協力隊等を対象にディスカッションリーダー育成講座を開催する。</p> <p>○ディスカッションリーダー育成講座 (H25.10～H26.1まで全7回開催予定、第1回はH25.10.4開催)</p> <p>・講師：慶應義塾大学 飯盛准教授他 ⇒ 受講者として、市町職員をはじめ10名程度の参加予定</p> <p>・テレビ会議システムを導入(遠隔講座) ⇒ 5月、県庁に整備済み</p> <p>※1人あたり25,000円を上限に参加者負担金〔諸収入：25千円×15人=375千円〕</p>	1,606
地域資源を活用した雇用創出事業	南部地域の事業者	<p>新たな雇用の創出や地域経済の活性化を図るため、地域資源を活用して新しい事業展開や事業拡大を行う事業者に対し補助する。</p> <p>・事業形態：補助金(補助率：1/2)</p> <p>・補助対象：県南部地域における民間企業、NPO法人等</p> <p>※起業後10～20年(起業後10年までの法人等は、雇用経済部が行う起業支援型地域雇用創造事業を活用)。</p> <p>・対象経費：新規雇用に係る直接人件費及び当該取組に係る事業費</p> <p>・事業期間：2年間(予定)</p> <p>・雇用総数：3人 1,750千円(人件費1,250千円+事業費500千円)×3人=5,250千円 ⇒ 3事業者採択。①丸勢水産有限会社(伊勢市)：6月から1名雇用 ②有限会社小川耕太郎百合子社(尾鷲市)：5月から1名募集開始 ③熊野漁業協同組合(熊野市)：9月から1名雇用</p>	5,250
集落支援モデルの構築事業	志摩市 (平成24年度～)	<p>集落機能を維持するため、志摩市・四日市大学と連携し、志摩市渡鹿野島において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。</p> <p>⇒8/31～9/1に四日市大学が合宿を予定していたが、台風接近のため、延期。平成26年2月を目途にイベントを実施することとしており、協議を継続している。</p> <p>【平成24年度実績】</p> <p>・9/13～14に四日市大学が合宿を実施。合宿で提案された意見を取りまとめ、10/29に住民ヒアリング、11/1と12/20に住民と学生の話し合いを実施。</p> <p>・2/4には、引き続き住民ヒアリングの結果を検討するとともに、渡鹿野島をテーマにした学生の卒業論文の内容が発表され、フェイスブックを活用した情報発信など具体的取組の提案について意見が交わされた。</p>	5,438
	尾鷲市 (平成24年度～)	<p>集落機能を維持するため、尾鷲市・慶應義塾大学と連携し、尾鷲市早田および近隣集落(九鬼、三木里、三木浦)において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。</p> <p>⇒第1回合宿を実施(6/14～16 九鬼・早田、6/28～30 三木里・三木浦) 合宿以降は、各地域で大学生と地域住民との協議が進められている。 最終報告会を平成26年3月に開催予定(三重大学とジョイント)</p> <p>【平成24年度実績】</p> <p>・9/5～9/7に、慶應義塾大学が三重大学とともに「尾鷲まちづくり合宿」を実施。</p> <p>・10/27に「尾鷲市まちづくり研究会」を立ち上げ、有志の学生と市民によるワークショップを実施し、10/28にはフィールドワークが行われた。</p> <p>・12/22、23に「第2回尾鷲市まちづくり研究会」を開催。</p> <p>・2/23、24に「第3回尾鷲市まちづくり研究会」を開催。2/23は学生から各地区の区長に具体的取組の企画提案が行われた。また、2/24は地域の料理教室等に参加し、映像撮影や参加者へのヒアリングを行った。</p> <p>・3/7にはこれまでの協議をふまえ、地域の課題や住民の「思い」に対する提案を学生がまとめ、4地区の住民に対し、「尾鷲市元気プロジェクト2012年度活動報告会」を三木里で実施した。平成24年度の取組の結果、尾鷲市の各地域の地域資源を「食」として捉え、課題に応じた取組の提案がなされた。</p>	

事業名	関係市町等	取組概要	予算額
	南伊勢町 紀北町 御浜町 紀宝町	<p>集落機能を維持するため、市町・三重大学と連携し、モデル地域において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。</p> <p><南伊勢町>モデル地域として、礪浦地域を選定。 <紀北町>モデル地域として、島勝浦地域を選定。 <御浜町>モデル地域として、神木地域を選定。 <紀宝町>モデル地域として、浅里地域を選定。</p> <p><u>⇒7～8月に大学生が各地域を訪問し、地域役員と協議を実施。各地域とも、本年度に取り組む内容やそのスケジュールを確定した。</u> <u>また、各地域とも、日常生活上の課題等について地域住民からのヒアリングを行っている。</u></p>	
集落支援モデル 課題解決事業	尾鷲市 志摩市	<p>集落支援モデルの構築事業の取組を通じて、地域住民の合意形成がなされ、地域住民が主体的に取り組む意向がある事業について、補助金により支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業形態：補助金(補助率：1/2) ・限度額：500千円 ・補助対象：市町 <p>※地域住民の合意形成については協議等に時間を要することから、原則、モデル地域としての取組を開始して2年目以降の地域を対象とする。</p>	1,000

■進捗状況 1 : 「サニーロードを活用した誘客促進事業」 (玉城町、度会町、南伊勢町)

○サニーロード沿線マップ「快適※伊勢志摩めぐり『サニーロードの旅』、ノベルティ(3町ゆるきゃらミニうちわ)の作成

※部数…ガイドマップ: 40,000部、ミニうちわ: 10,000部

※7/1(月)…情報発信拠点「城(ぐすく)」で3町合同記者会見(伊勢・中日・毎日新聞に記事掲載)



《3町ゆるきゃらミニうちわ》



《「城(ぐすく)」での3町合同記者会見》



○サニーロード沿線マップを高速道路SA(土山、御在所、安濃)、「城(ぐすく)」等で配布(7月～)



土山SA



御在所SA



「城(ぐすく)」

○情報発信拠点「城（ぐすく）」の観光案内コーナー・物産販売コーナーの整備

入口正面に情報発信コーナーを設け、玉城町、度会町、南伊勢町のリーフレットスタンドを設置



入口正面を情報発信・休憩コーナーに、入口右空間を和室から物産販売コーナーに改修

《整備前》

《整備後》



○サニーロード周知のための案内看板設置（7箇所、9/10設置済み）



■進捗状況 2 : 「田舎暮らし体験事業」(大紀町、紀北町、熊野市)

○南三重田舎暮らし体験ツアー2013-2014 チラシの作成

※ 部数…2,000部 (活用方法/移住相談会での配布、空き家バンク登録者への配布など)



○大紀町田舎暮らし体験ツアー ～まるごと錦～ 7月27日(土)～28日(日)

参加者 5組16名

内容 大紀町錦地区の地場産業である漁業体験を通じて地域の人とふれあい、大紀町での生活を体験する。

空き家バンク説明、はまちの餌やり体験、干物作り体験



《はまちの餌やり体験》



《干物作り体験》



《民宿での交流会》



《最後にみんなで記念写真》

○今後の予定

《大紀町》

田舎暮らし体験ツアー ～田舎を満喫～

日程 12月14日(土)～15日(日)

内容 大紀町の小さな山里、野原地区でお正月の注連縄作り、七洞岳登山やジビエ料理も味わう、山里大満喫の体験ツアーです。

《紀北町》

のんびりおいしい田舎体験

日程 10月5日(土)～10月6日(日)

内容 島勝浦で地元のおかあさんと郷土料理作りに挑戦、海と山でおいしいものを食べてゆっくり過ごす体験。紀北町の空き家散策もあります。

心とカラダが癒される食からハジメル紀北町

日程 11月16日(土)～17日(日)

内容 心はゆうがく邸から眺める中秋の名月で、お腹は最高の朝食で癒されます。街中探検や魚市場見学と郷土料理と一緒に作って、楽しく交流会。

《熊野市》

熊野の山・林業体験

日程 11月16日(土)～17日(日)

内容 安全でカッコイイ木登り「ツリークライム」や熊野古道・千枚田ウォークを通して、「山・林業」の視点から田舎の今を知ってつながる体験ツアー。

熊野の里・農業体験

日程 1月12日(日)～13日(月・祝)

内容 世界遺産熊野古道ウォークや地元の元気な人たちとの交流を通して、「里・農業」の視点から田舎の今を知ってつながる体験ツアー。

熊野古道世界遺産登録10周年事業等の展開方向

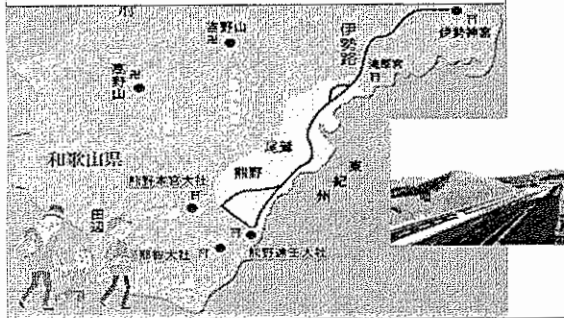
平成26年は、世界遺産登録10周年！

注目される「真の熊野」
世界遺産のチャンス！

- 10周年の機運の醸成
- 伊勢～熊野の繋がりをPR！



- 近くなる東紀州！（H25年度末までに供用）
- ・近畿自動車道紀勢線（勢和多気～尾鷲北）
- ・熊野尾鷲道路（大泊～尾鷲南）



10周年キャンペーンの実施

集客交流の
拡大と地域の
取組の
実践

さらなる
地域活
性化へ

熊野古道への来訪者増
25万人(H23)→
目標:39万人(H27)

市町連携

- ・各市町、観光協会等の単独イベントの冠事業化
- ・地域の観光魅力等の情報提供
- ・体験メニュー等の充実

各市町における
賑わいづくり

連携

三重県観光キャンペーン

実はそれ、ぜんぶ三重なんです！
(H25～H27)

- ・情報発信（全国向け、女性層・シニア層向け）
- ・誘客事業（周遊パスポート、伊勢から県内周遊）
- ・おもてなし向上（みえ旅案内所）

三重県の認知UP
三重県への誘客
周遊促進(パスポート)

効果
相乗

三県連携

＜三重・奈良・和歌山＞
「吉野・高野・熊野の国」事業

- ・3県連携によりスケールメリットを生かした世界遺産「紀伊半島の霊場と参詣道」の情報発信

世界遺産のPR
紀伊半島への誘客

効果
相乗

熊野古道世界遺産登録10周年事業 三重県実行委員会

【委員会メンバー】

尾鷲市長、熊野市長、紀北町長、御浜町長、紀宝町長、県南部地域活性化局長、
紀北地域活性化局長、紀南地域活性化局長、紀勢国道事務所長、
中日本高速道路株、㈱三重交通

部会
参画

地域の関係者

（語り部、保存会、商工業者、宿泊業者、
観光関係事業者等）

参画
連携

県負担事業

H25

・熊野古道セミナー
三重テラス等
10月～2月
(月1回)

・伊勢路霊場巡拝
モデルウォーク
東紀州5市町
10月～11月

・まちなか誘導促進
魅力再発見
イベント開催
11月 熊野市
3月 紀北町

・伊勢での熊野古道
PR 神宮周辺で
熊野古道の
情報提供

H26(案)

世界遺産登録
10周年記念イベント
等の実施



10周年記念イベント実施
周遊の仕組みづくり
古道歩き環境整備

連携

熊野古道世界遺産登録10周年事業
市町実行委員会

市町が南部地域活性化基金事業を活用し、
事業を実施

H25～H26

誘客キャンペーン実施
地域魅力の発信

- ・キャンペーンホームページ製作
- ・キャンペーンガイドブック製作
- ・メディア、旅行会社へのPR
- ・広告宣伝の実施 等

連携

東紀州地域振興公社

- ・熊野古道関連事業（語り部斡旋、語り部友の会、入込調査）
- ・まちづくり事業（みえ熊野学講座、巡回講座）
- ・観光づくり事業（体験プログラム開発、教育旅行誘致、写真展開催等）
- ・情報発信誘客事業（物産展等での発信、フィルムコミッション事業）
- ・エコツーリズム推進事業

東紀州地域内における
受入体制の整備等

「美し国おこし・三重」

- ・縁博みえ2014
- ・ブレ縁博みえ

熊野古道世界遺産登録10周年事業の取組方向

5周年事業以降の成果と課題

【5周年事業の成果】

- 知名度の向上
- 来訪者の増加
東紀州地域観光レクリエーション
入込客数
1,634千人(H21)→1,771千人(H24)
(8.1%増)
- 熊野古道来訪者数
201千人(H21)→274千人(H24)
(36.3%増)
- 熊野古道伊勢路をめぐるバスツアーの定着

【環境の変化】

- 旅行形態の変化
- 高速道路の延伸
- 神宮式年遷宮
- 地域間競争の激化

課題

【短期的課題】

- 地域経済への効果に対する実感が希薄
- 高速道路延伸による滞在可能時間増加への対応
- 式年遷宮客の取り込み

【中長期的課題】

- 地域住民(若年層)の関心が薄い
- 語り部・保存会の高齢化、後継者不足
※実際に活動している語り部(81名)のうち70歳代12.3%、60歳代50.6%(計62.9%)
- 古道歩き環境が不十分

10周年事業の展開

目的/目標(事業例)

価値に気づく

文化的景観として認められ、登録された世界遺産である熊野古道の本質を、より多くの方々に知ってもらう。

(事業例)古道シンポジウム(オープニングイベント)
熊野古道ウォーク

守り伝える

自然、生活、産業等に密接にかかわりをもつ文化遺産の特性を踏まえて、地域が一体となって保全に努め、後世に伝えていく。

(事業例)語り部の養成
熊野古道サポーターズクラブ(仮称)の結成

伊勢路を結ぶ

熊野古道が世界遺産として認められた価値の本質は、伊勢から熊野までのすべての道にあることから、熊野古道伊勢路として伝えていく。

(事業例)峠道標の更新、伊勢路図絵の改訂

来訪者の周遊性・潜在性向上

熊野古道の峠だけでなくまちなかに観光客を誘導することで滞在時間を延ばし、観光消費を促進させ、経済波及効果を高める。

(事業例)まちなか魅力発見イベント

チャンスを生かした誘客

神宮式年遷宮や高速道路の延伸、熊野古道世界遺産登録10周年といった絶好のチャンスを見逃すことなく、情報発信と誘客促進に取り組むことで、集客交流を拡大させる。

(事業例)首都圏での記念シンポジウム開催
セミナー開催(東京)
テレビ媒体を活用した情報発信 旅行商品の企画・造成



目指すべき姿

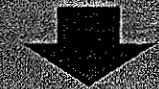
【10周年事業の目指すべき成果】

- 保全意識の向上
- 古道歩き環境整備
- 知名度、関心度の向上
- ホスピタリティの向上
- 来訪者、リピーターの増加
- 集客交流の拡大
- 経済効果の拡大



○地域の人々が熊野古道をはじめとする地域の宝に愛着と誇りを持ち、主体的に地域活性化に取り組んでいる

○来訪者が再び訪れたいと感じる地域になる



地域経済が活性化され魅力的な地域となっている